

「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」 会津地方かわら版

会津地方推進本部(福島県会津農林事務所)

平成28年8月31日(水)発行

目次

- 1 会津地方推進本部会議について
- 2 頑張る農林漁業者の取組紹介
- 3 会津農林事務所の取組紹介



「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』 新生運動」会津地方かわら版について

会津地方推進本部では、新生ふくしまの『食』と『ふるさと』の実現に向け、農林業者、県民、関係機関・団体が一体となり、様々な運動を展開しています。会津地方の農林業者の取組や、各部・所の取組、各種研修・イベント等の情報を発信するため、会津地方かわら版を発行しています。

会津地方推進本部会議について

○会津地方推進本部会議

平成28年6月30日、「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」会津地方推進本部会議を開催しました。

構成員の方々からは、平成27年度事業実績及び平成28年度事業計画について説明をした後、県産農林水産物の風評払拭に向けたイベントやPR活動の取組状況をお話いただきました。



推進本部会議の様子

○意見交換会

推進本部会議に引き続き、「会津産農林水産物等のブランド化について」をテーマに講師をお迎えし本部構成員との意見交換会を開催しました。

まず、野菜のブランド化に先進的に取り組んでおられる郡山ブランド野菜協議会の鈴木光一氏(鈴木農場・伊東種苗店代表)に郡山ブランド野菜の取組や協議会の活動について講演していただき、会津産農林水産物の高付加価値化や差別化につなげていくためのヒントを学びました。



鈴木氏による講演

郡山ブランド野菜協議会の取組内容の紹介では、『御前人参(ごぜんにんじん)』など商品名はすべて公募で募集し地元で愛されるものとなっていることや商標登録で品種を守っていることが説明されました。また、放射性物質の量などネガティブな数値ではなく「甘み」や「コク」といった「ポジティブな数値」、すなわち「おいしさ」を数値化することに取り組まれていることや、どうやって食べたらおいしいかシェフや消費者と交流していることが説明されました。

さらに、生産方法のマニュアル化を行い、生産者や担い手の育成にも取り組まれているとのお話がありました。

本部構成員からは会津伝統野菜の展望についてや商標登録についてなど様々な質問が出され、活発な意見交換が行われました。

頑張る農林漁業者の取組紹介

「ナチュラルビューティー」を引き出す農業を目指して

ストウ ボンド アキ

須藤 Bond 亜貴 さん（会津若松市）

須藤 Bond 亜貴さんは、2年前に、13年間日本語教師を勤めたポーランドから帰国したのを契機に実家（有限会社すとう農産）へ就農。原発事故後、父が農業経営に奮闘する姿を見たこと、「食」の大切さを改めて痛感したことが就農のきっかけでした。現在は、水稻8ha（アイガモ農法2ha、特別栽培米6ha）、大豆等を生産し、水稻農家37戸と委託契約栽培（特裁）を行っています。

原発事故前は顧客の9割が首都圏の個人消費者でしたが、事故後は3割ほどに激減。売上げの低下に伴って厳しい経営状態が続いています。特に安全・安心を売りとする有機

栽培米は未だ販売が回復していない状況です。そのような厳しい個人消費の中、カレー、リゾット、寿司等の用途別に米を作り、少量のパッケージにするなど消費者の使いやすい形で販売する工夫を行っています。

また、味噌、玄米珈琲等農産物の6次化をはじめ、米ピアス等工芸品も作成し、道の駅や旅館で販売するほか、米を本屋で販売するなど、新たな販路開拓にも意欲的に取り組んでいます。

アイガモ農法でも米を作っているため、農法で使った鴨を精肉にし、旅館や日本料理店へ販売する取組も行っており、将来的には燻製にして販売したいとも考えています。さらに、アイガモを水田へ離す際は、近所の幼稚園の園児に放鳥を体験させるなど、子供が農業にふれあう機会を作るなどして地域に貢献しています。



ストウ ボンド アキ

須藤 Bond 亜貴 さん

○ 課題、今後の目標について

市場に求められているものを農業者が生産し、適正な利益を生み出せるものとして6次化商品のレベルを向上させ、洗練されたよりよい商品を作っていきたいと、須藤さんは考えています。

また、現在は取引に占める割合の3割が個人で7割が卸しであるが、着実に利益を出す構造づくりとして取引に占める小売り業者など個人の割合を増やしていきたいと、話してくださいました。

○ 須藤さんからのメッセージ

料理を作る際には、ただ食べるために作るのではなく、楽しくワクワクしながら料理をしてほしい。それに合った食材（農産物）を今後も提供していきたいと抱負を語ってくれました。



会津産コシヒカリを
使用した「カレーのお米」



お米で作ったアクセサリ
「米ピアス」



アイガモの放鳥を
体験する児童

会津農林事務所の取組紹介

○ふくしま農育推進事業「田んぼの学校」 田んぼの生き物調査を実施しました。



用水路の生き物をつかまえる児童

7月6日、新鶴小学校の小学5年生児童34名が参加して、田んぼの生き物調査を実施しました。

この取組はふくしま農育推進事業の一環で、田んぼでの稲作を通し、田んぼの大切さや自然環境の大切さ、食・命の大切さについて、体験学習いただくというものです。

今回の生き物調査は、6月に実施した田植えに続き、学校の隣接水田の用排水路で、水路に生息するザリガニ、ドジョウ、カエルなどの水生生物を網を使って捕獲・観察し調査を行いました。

当日はアクアマリンふくしまの春本講師を招き、捕獲したザリガニや小魚など生き物の説明や、生態系・生育環境について解説をいただき、田んぼの環境について学びました。

参加した児童からは「学校近くの用水路にこんなにたくさんの生き物が生息していることにびっくりしました。」との声や「この自然環境をいつまでも守りたい。」などの話がありました。

今後は、稲の生長についての学習や稲刈りを体験、収穫祭などを実施し、食と命の大切さについて理解を深めていきます。

【農村整備部】

○「漆の掻き子」の育成研修を開催しています。

8月16日、県林業振興課主催による第3回「漆の掻き子」育成研修会が開催されました。この研修は、掻き子の不足により会津産漆の供給減が危惧されていることから、森林環境税を活用し特用樹に由来する伝統文化の継承を目的に県内から受講生を募集し、5名の研修生が受講しています。

この時期は、樹液の流出が最も多く良質な(ウルシオール量が多く、艶の良い)漆が採れます。午前中は、会津若松市一箕町金堀の市有林において、カンナと呼ばれる漆掻き専用の道具で樹幹に傷を付け、にじみ出る樹液をヘラとカキタルと呼ばれる道具で採取する技術を、掻き子職人である村上修一氏から学びました。午後からは、ハイテクプラザ会津若松技術支援センターにおいて生漆を混ぜ粒子を均一にする「ナヤシ」と脱水作業の「クロメ」の精製工程の実習を行いました。最後の第4回研修は、9月末に開催予定で、受講修了者には修了証を交付します。



漆掻きに挑戦する研修生



精製工程
「クロメ」に
挑戦する研修生



【森林林業部】

○金山町ツキノワグマ・ニホンザル被害防止対策研修会が開催されました。

7月27日、金山町横田公民館において、金山町ツキノワグマ・ニホンザル被害防止対策研修会を開催しました。当日は、横田地区等の農業者や関係者約20名が出席しました。

研修は二部構成で行われ、一部は座学で「ツキノワグマとニホンザルの生態と被害防止について」と題して、特定非営利活動法人おーでらす代表理事の今野万里子氏から約一時間の講義を頂きました。

次に、「ツキノワグマ対策としての安全で効果的な電気柵の設置方法について」現地研修する予定でしたが、あいにくの雨模様のため引き続き会議室において効果的な電気柵の設置方法を今野氏から学びました。

ツキノワグマとニホンザルの被害防止について、『敵を知る・敵にあった対策をする・継続する』とのアドバイスがあり、また、ツキノワグマ対策の効果的な電気柵の設置方法については、設置マニュアルにより御指導いただきました。

参加した農業者からは、町の地域特産品『奥会津金山赤カボチャ』をはじめ、多くの農産物をクマやサルの被害から守るため多くの質問や意見が出され、大変有意義な研修会となりました。

【農業振興普及部】



今野氏による講演

○「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを実施しました。



来場者へスムージーを提供する小汲シェフ

8月6日に今年度第2回目の「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを道の駅にしあいづ「ミネラル野菜の家オープン記念イベント」にて実施しました。今回 PRしたのは西会津産ミネラル野菜。ミネラル野菜はミネラル分を多く含んだ土壌で栽培された栄養価の高い健康野菜であり、西会津町では長年ブランド化に取り組んできました。

野菜ソムリエであり、会津若松市内で台湾料理店を営む小汲律シェフにご参加いただき、西会津産のトマトとスイカを使用したスムージーを試食提供しました。炎天下の中、冷たいスムージーは来場者に大好評で多くの方々がキャンペーンブースへ足を運ばれました。

また、県産農産物の消費動向等に関するアンケートへ回答してくださった方、先着200名様へ道の駅にしあいづで販売されている6次化商品をプレゼントしました。

多くの方においでいただき、好評のうちにキャンペーンを終えることができました。

第3回目のキャンペーンは10月9日(日)に道の駅あいづ湯川・会津坂下において開催予定です。

【企画部】

【ご意見・お問い合わせ】

会津地方推進本部事務局

(福島県会津農林事務所企画部地域農林企画課内)

〒965-8501

福島県会津若松市追手町7番5号(会津若松合同庁舎2階)

TEL (0242) 29-5369 FAX (0242) 29-5389

E-mail: kikaku.af04@pref.fukushima.lg.jp

